

課題探究型学習の導入

学習指導要領の改訂により、「総合的な【学習】の時間」は「総合的な【探究】の時間」に変わります。これまでの知識偏重から脱却し「思考力・判断力・表現力」の育成を重視するもの。

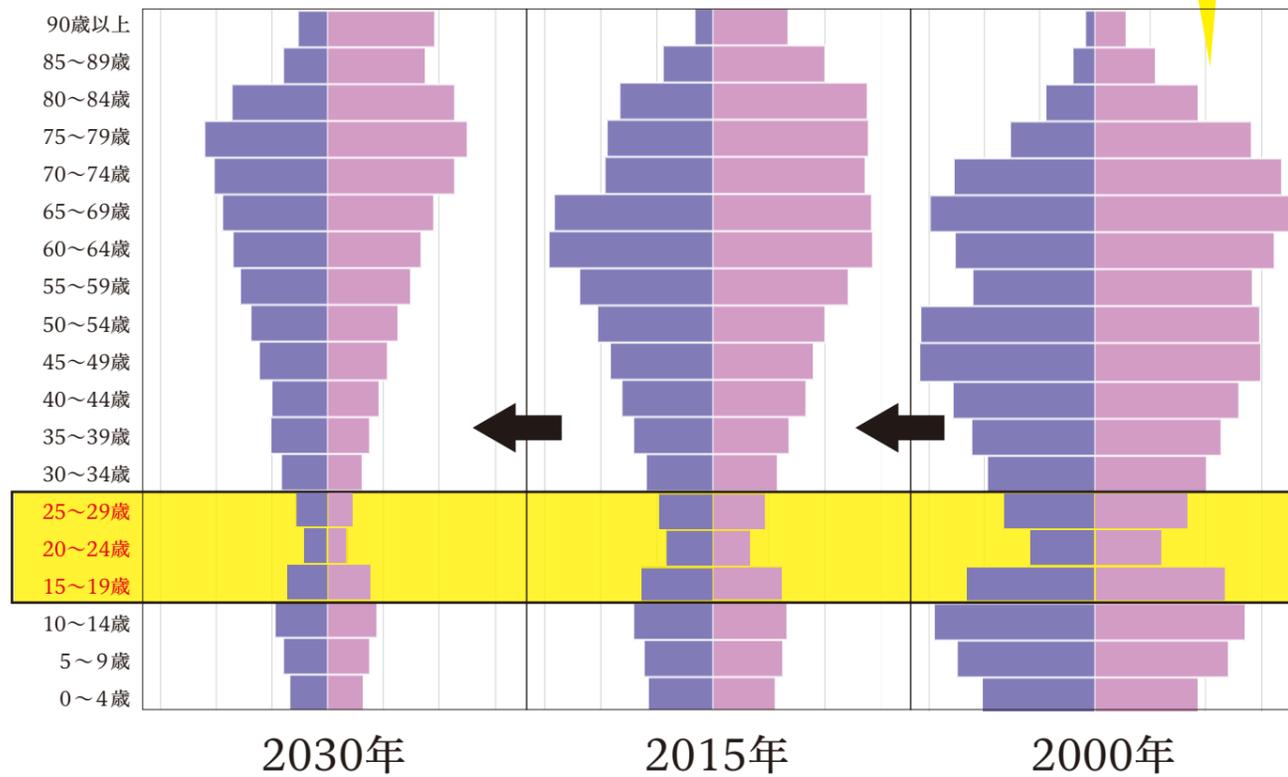
つまり、「人から与えられる」「授業の中で先生から一方的に教わることを覚える」のではなく、自ら考え、自らの意志で行動する「自律(自発)」という概念が極めて重要となっています。

15歳～29歳までの人口が著しく減少

平戸市の人口ピラミッドの変化

■ 男性 ■ 女性

出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年3月推計)」



毎年、市内3高校の生徒とオランダの高校生と相互交流を行い、グローバルな視点を養う事業を行っています。

少子高齢化・人口減少社会において、地方の公立高校に求められる役割と可能性とは

特集 高校、好きですか？

—高校魅力化プロジェクト始動—

未来を担う人材の確保

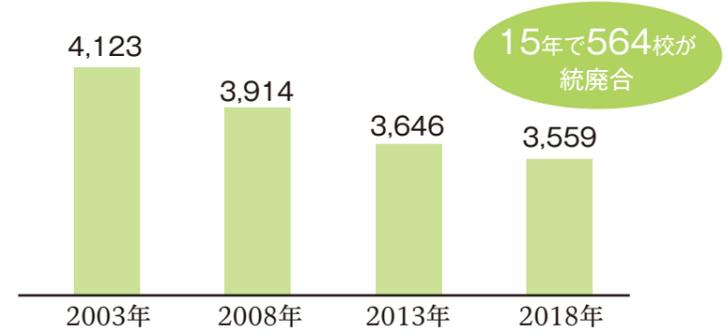
本年4月から新たに発足した「地域人財対策室」では、第2次平戸市総合計画に定める重点プロジェクトの1つとして、「未来を担う人材確保」を目指し「高校の魅力化」にも取り組みを始めています。

厳しさを増す教育環境

全国に公立高校は、約3,600校あり、この内1年間に統廃合される高校は50校ほどです。高校の統廃合が進む地域は、少子高齢化も進む離島や中山間地などの地方です。その地域に唯一の高校が無くなったからといって、他の高校に容易に通えるほど現実には甘くありません。高校を含め教育の拠点の有無が地域に与える影響は甚大で、まず「子育て世代」が地域を離れざるを得ず、学校の廃校が少子高齢化と人口減少に拍車をかけることにもなります。

全国の公立高校数の推移

出典:文部科学省「学校基本調査」



平戸市の取り組み

平戸市としては、即効性を期待するのは難しいかもしれませんが、たとえ地道であっても「地域自らが人を育てる」ことが、その地域を存続させ、次世代につながるものと考えています。高校3年間は、人生の中で最も輝きかつ親の愛情に守られた安心感のある時期です。しかし、少年から青年へと成長する過程で新たな憧れを抱き、輝くものへと志向が向く多感な時期でもあります。

高校教育の意義とは

一般的に親や学校が求めるのは「良い成績を取り、言うことを聞く子ども」。

しかし、そんな考え方はもはや古く、人が手掛けている仕事はいずれAIに取って代わられる可能性すら出てきました。張り合ったところで、情報処理能力ではAIには敵いません。また、一流の大学を卒業して大企業に就職すれば安泰という時代ではないことも、経済の現場で働いている親の世代が一番よく知っています。

市内の県立高校の魅力とは

平戸市内には「猶興館高校」「平戸高校」「北松農業高校」という3つの県立高校があります。ここでは、義務教育を終えた子どもたちが未来への第一歩を踏み出す場所として、それぞれ特色ある教育目標を掲げ、より専門性の高いカリキュラムのもと、夢の実現に向けて充実した高校生活をおくっています。

今月号では、そんな市内の3校における生徒たちの学校生活を紹介します。



明治13年、旧平戸藩主「松浦詮」公が設立した私塾「猶興書院」が始まりとされ、来年は創立140周年を迎える県内屈指の伝統校

学校の特徴

普通科では、大学や短期大学、看護学校や各種専門学校への進学を基本とし、公務員や一般就職を目指す生徒にも対応しています。

理数科では、理系大学への進学を目指し、3年間を通して数学・理科に重点を置き、実験や観察を通して論理的思考力や創造力を身につけるための学習に取り組めます。特に課題研究として、科学分野に関するテーマの中から自ら課題を設定し、グループで実験や現地調査を重ね、討論を経て内容をまとめ上げ発表する取り組みを行っています。優秀な研究成果は『中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会』で発表し、これまで2度の最優秀賞と1度の優秀賞に輝きました。

また、普通科においても、今年度から新たな取り組みとして「総合的な探究の時間」を活用し、地域が抱える課題について学び、解決に向けて研究する活動「ふるさと課題探究活動」に取り組めます。猶興館高校では、さまざまな地域の課題に精通したスペシャリストを人選し、テーマごとに話題提供や生徒への指導をお願いしています。やがて、こうし



ふるさと課題探究活動で地域課題を学び解決策を模索

た取り組みを通して、生徒たちは自ら考え、自らの意志で行動する「自立・自発」という姿勢を身に付けることが期待されます。

勉強だけでなく部活動も

猶興館高校では、勉強だけでなく部活動も盛んです。現在、体育部14部、文化部が8部あり、文武両道を目指して日々練習に励んでいます。今年度の長崎県高校総体では女子バレーボール部がベスト8、空手道部は団体・個人戦ともに3位となるなど素晴らしい成績を収めました。また、ダンス同好会では、平成26年度から5年連続で男女混成チームが九州大会で第1位となり、全国高校ダ

ンスドリル選手権大会に出場を果たしています。



ダンス同好会は全国大会へ出場するなど大活躍

魅力的な学校行事

さらに、楽しく魅力あふれる学校行事がたくさんあります。4月の新入生歓迎遠足では川内峠までみんなで歩き、生徒会で企画したレクリエーションや新入生による「連風」は有名です。2学期になると猶興祭（体育祭・文化祭）で盛り上がり、2つの行事を並行して準備をするのは大変ですが、「自立・自発の猶興精神」で生徒一人一人が役割をしっかりとこなし、毎年素晴らしい猶興祭が開催されています。

こうした学校行事を通じて、生徒



体育祭では一致団結して応援合戦

同士の絆が深まり、何事にも頑張ろうとする姿勢が身に付いていきます。このように猶興館高校は、進学のための学習ばかりではなく、部活動や学校行事にも力を入れており、自分が決めた進路や夢の実現のために教師が生徒一人一人と向き合いながら、充実した高校生活をおくることのできる高校です。



創立140周年を迎える令和2年4月からは新しい制服にリニューアルします。

新制服では女子もスラックスが履ける



新しくリニューアルされる制服は、動きやすくカジュアルなデザインとなっただけでなく、女子でも希望すればスラックスにすることが可能となりました。

インタビューに答える生徒会役員



【Interview】在校生に聞きました

勉強、部活、地域活動とメリハリのある学校生活

猶興館高校に入学するまでは、勉強中心の学校だと思っていました。でも実際に入学してみると、勉強だけではなく部活や地域活動にも力を入れていることがわかりました。普通科では、自分で考えて地域の課題を見つけ、どうしたら解決できるかを探るなかで色々な知識を得ることができ、探究活動はとても楽しいです。部活動も、運動部・文化部どちらも、仲間意識が強く、お互いに励まし合ったり支えあったりして活動しています。クラスマッチや文化祭のときなどは、クラスや学年のみんなであまりながら一致団結して取り組んだり勉強合宿のときはメリハリをつけて勉強するなど、学校全体でまとまりがあると感じています。また、先生との距離感も近いので進路や日ごろの悩みなども相談でき、毎日充実した学校生活をおくっています。

猶興館高校2年

てしま むさし
生徒会長 手島 武蔵 さん





オープンスクールでは、参加した中学生を平戸高校が実習で行っている車イス介助を通して、介護の現場の雰囲気を体験



平戸高校では、「産業社会と人間」の授業を通して1年次から職業への理解を深めます。写真は(有)坂野水産での餌やり体験



小規模校の特色を活かし、先生の細やかな指導と生徒の主体的な活動によって、明るく、楽しく、自分の夢の実現を目指す総合学科の高校

長崎県立平戸高等学校

長崎県では、昨年度から課題探究型学習を通して、ふるさとへの愛着や誇りを育むことを目的に「ふるさとの未来を担う高校生育成事業」を開始しました。

平戸高校は今年度の研究指定を受け、生徒の主体的な学びを推進しています。さらに、思考力やプレゼンなどの表現力、進路選択のための

新たなチャレンジ

平戸高校では、学校行事でも生徒が主役となっているのが特徴的です。体育祭や文化祭、オープンスクールなどの学校行事を行う際には、生徒のアイデアや意見をできるだけ尊重して、生徒と先生と一緒に作りあげていきます。

オープンスクールでは、生徒会を中心に実施内容の企画や当日の進行方法についてを事前に話し合い、各系列や部活の紹介、中学生との座談会など随所に工夫がなされています。実際に参加した中学生や保護者からは、時折笑みがこぼれるなど、平戸高校の明るく、楽しい雰囲気や魅力が伝わる内容となっています。

生徒主体の学校行事

平戸高校では、学校行事でも生徒が主役となっているのが特徴的です。体育祭や文化祭、オープンスクールなどの学校行事を行う際には、生徒のアイデアや意見をできるだけ尊重して、生徒と先生と一緒に作りあげていきます。

キャリア教育などについて、地元の高校を舞台に教師や地域住民と市が連携して、生徒にさまざまな可能性について理解を深めてもらおうとする「地域が人を育てる」挑戦が始まろうとしています。

【Interview】 在校生に聞きました

全学年の生徒が仲が良く、夢中になれるものを探せる

平戸高校に進学した理由は、自宅から近く中学時代の友達も多く、安心感があったからです。最初は自分の方から話し掛けるのが苦手だったのですが、直ぐに新しい友達ができました。小規模校なので、他学年とも話すことが多く、仲も良くて校内はいつも明るい雰囲気です。今回は、新しく生徒会長に選ばれましたが、もともとの内気な性格を克服しようと思い、部活は「家庭ボランティア部」に所属し、1年生から生徒会活動にも思い切って参加しました。

私は、母親の影響もあり、小さいころから看護師になることを目指していますが、昨年の職場体験で病院を訪れ、いろんな体験をする中で人の世話をする看護師になりたいと改めて思いました。

平戸高校は「地域巡検」や「職場体験」など、地域のいろんな社会人と触れ合う機会も多く、自分がやりたいこと、夢中になれるものを探せる素敵な場所です。

平戸高校2年
生徒会長 **島田 香朋** さん

このように平戸高校では、総合学科としての特色を生かしながら、生徒主体の学校行事を通じて、自分の将来をしっかりと考え、自分自身の成長を実感することができる高校です。



「福祉生活系列」の実習の様子

多様な学習体系

平戸高校は、希望する進路の実現に向けて、生徒自らが履修科目を選択することができる、総合学科の高校です。

「人文メデイカル系列」では、国語・数学・英語などの普通科目を中心に学習し、大学、短大、看護学校への進学や公務員を目指しています。

「情報ビジネス系列」は、商業の科目を中心に学習し、情報処理検定や簿記検定など多くの資格取得を目指しています。

「福祉生活系列」では、介護などの福祉全般および被服・食物などの家庭科について学び、一般就職や介護職、福祉系大学や専門学校などへの進学を目指しています。



「コの字型授業」の様子

「コの字型授業」の推進

平戸高校ならではの特色のひとつとして、「コの字型授業」があります。教室内で机を文字のとおり「コの字型」に配置することで、授業中に生徒同士が分らないところを聞いたりと、教え合ったりすることができ、ことから、授業の理解が深まるよう工夫されています。



長崎県高校生介護技術コンテストでは、最優秀賞を獲得。長崎県代表として九州大会へ出場



ドローンの操縦技術を学ぶ



スクールツーリズムの一環で子どもたちとハウス内でブドウ狩り

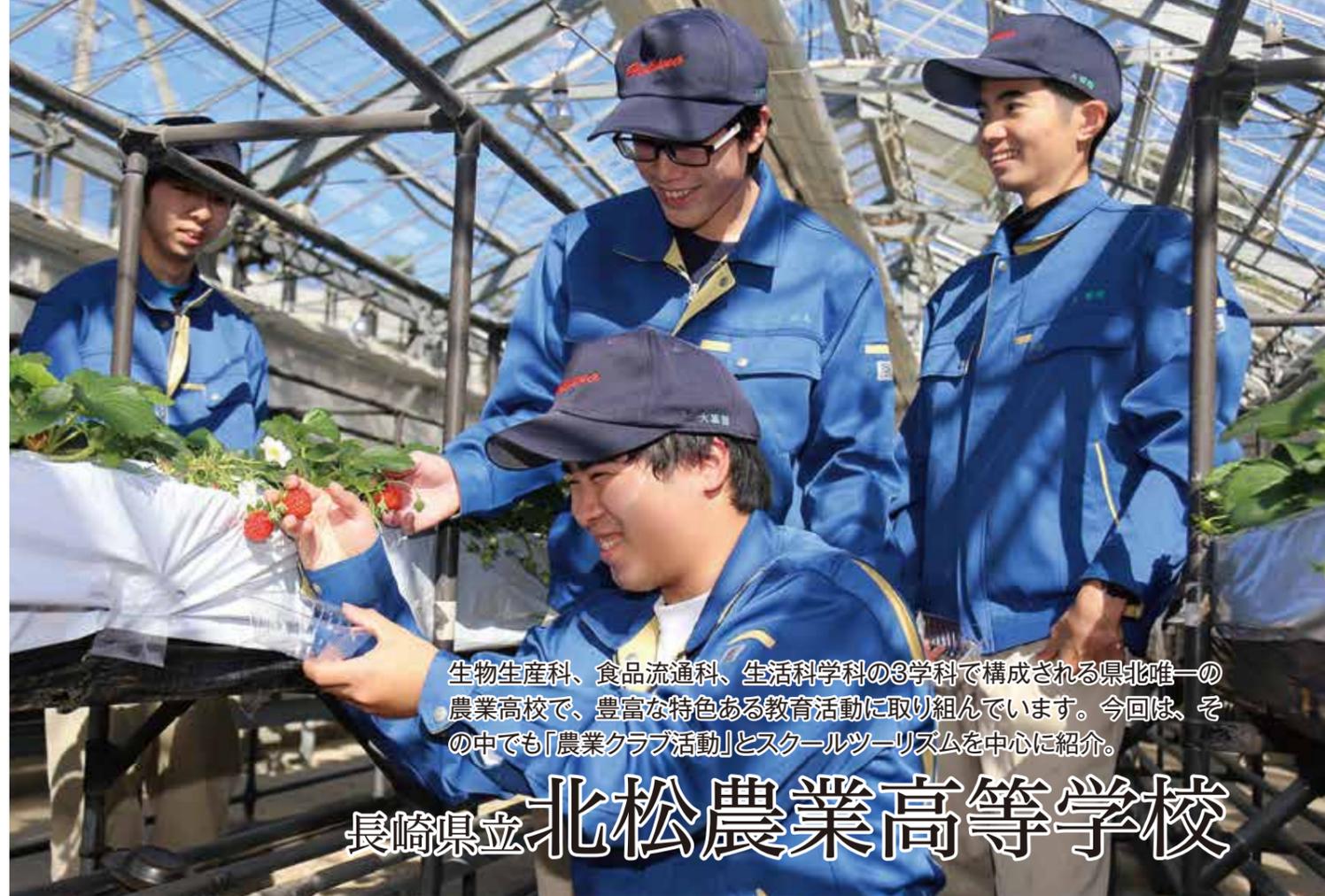
このように北松農高では、農業に関する知識や技術などを学べることはもちろん、食品製造や加工・販売さらには調理や被服、福祉まで実に豊富な分野の中から自分の将来の「夢」を見つけることができる多様性のある高校です。

幅広い分野の知識を学べる

また、最近では、「田平まちづくり協議会」の指導を受け、ドローンの操縦技術も学んでいます。農業分野に限らずさまざまな分野でドローンの活用が広がっており、操縦技術を学んだ生徒は自分の強みを持つことができます。

最先端技術を使った取り組み

や動物とのふれあい体験、ぶどう狩り体験など、地域の人たちに北松農高の魅力を知らしめるために企画されたイベントで、生徒が主体となっており、他の高校ではなかなか行うことは、他の高校ではなかなか経験できるものではなく、「北松農高ならではの」貴重な教育活動と言えます。



生物生産科、食品流通科、生活科学科の3学科で構成される県北唯一の農業高校で、豊富な特色ある教育活動に取り組んでいます。今回は、その中でも「農業クラブ活動」とスクールツーリズムを中心に紹介。

長崎県立北松農業高等学校

[Interview] 在校生に聞きました

普通の高校生では体験できないことが学べる

小さい頃から動物が好きで、中学生のころは動物の勉強をしたいと思っていたので、北松農業高校へ進学しました。家は、非農家なので、最初のうちは農業の実習とか大変だったけど、クラスメイトと一緒に取り組むことで、仲間との信頼や協調性を学ぶことができました。私は「農業鑑定競技」の部門で県大会に3回出場しましたが、大会当日まで先生や仲間と一緒に勉強しました。その経験で得た知識と技術を進学先での実習や勉強に生かしたいと思っています。

またスクールツーリズムでは、高校生だけでは出来ないことを社会人と一緒に頑張ることでよい経験ができました。北松農高には農業を支える人材として農業に興味がある人に入学して欲しいとは思いますが、いろんな資格が取れたり幅広い学習ができるので、農業に限らず高校で自分の夢と可能性に挑戦しようとする人に目指してほしいです。

北松農業高校3年
農業クラブ会長 松下山下 舜さん



田平町内に古くから伝わる権現太鼓を、北松農高の生徒たちが代々受け継いでいます。



「農業鑑定競技」「平板測量競技」においては、全国大会へ出場するほどの腕前の生徒も。

農業クラブの取り組み

農業クラブは、高校で農業を学んでいる生徒が主体的な活動を通じて、充実した高校生活を送るための取り組みですが、「生徒会」としてのボランティア活動や学校行事の運営にも関わっています。



全国大会に参加した農業クラブのメンバー

北松農高で開催された「令和元年度第69回長崎県学校農業クラブ連盟年次大会」では、北松農高の農業クラブが大会の企画・運営を担当しました。この大会は、県下の高校で農業を学ぶ生徒が、日頃の学習を通して実践してきた研究や意見発表、授業や実験・実習などで習得した知識や技術を競い合うものです。今大会では「農業鑑定競技」の畜産と生活

スクールツーリズム

スクールツーリズムとは、「学校」と「観光」を融合した新しい取り組みとして注目されています。北松農高では、農業高校ならではの「食・「農」・「地域貢献」を通じて、松浦鉄道(株)と連携し、体験交流型のイベントを行っています。お菓子作り体験

部門、「平板測量競技」の部門で北松農高の生徒が最優秀賞を受賞し、さらに東北地区で開催された「全国大会」にも出場を果たすことができました。こうした大会への出場によって、先生や仲間たちと一緒に頑張った経験は、高校生活における大切な思い出になるとともに同じ目標を持つ他県の高校生と交流することも大事な「学び」につながります。



第69回長崎県学校農業クラブ連盟年次大会

「考える力」が大切
— ひらど未来講演会 —

本年10月には、市内3校合同による「ひらど未来講演会」を開催しました。各界各層で活躍する先達から次代を担う若者にアドバイスと激励を期待しての取り組みで「思索を深め、自分自身の中で知識を育てる」という考え方を持つことが大事」という講師の言葉に共感する生徒も多かったと思います。このような取り組みによって、学校の枠を超えて多様な人の価値観に触れ、世代や地域を超えた「絆」が深まることを期待します。



今回の取材を通して
— 夢と可能性 —

在校生も卒業生も「異口同音」に主張していたのは「夢と可能性」です。それぞれの判断で進学する高校を決め、今回紹介した市内の3校では、それぞれ特色のあるカリキュラムのもと、試行錯誤しながらも先生や仲間とともに自分の進む道を見つけ、精一杯、高校生活を謳歌しています。貴重な高校生活はあつという間です。自己を見つめ、悔いのない時間を過ごして欲しいと思います。

これからの時代は、常に「自分の頭で考える」力が求められています。好奇心とそこへ飛び込む主体的な行動力、トラブルに対応する課題解決能力やタフさ、周りのせいにならない前向きさ、まだ見ぬゴールに向かって一生懸命進むチャレンジ精神が大切です。目まぐるしく諸情勢が変化する現代において、山積する課題に的確に対応するには、さまざまな変化に順応できる「人財(財産)」を如何に確保できるかがとても大切になってきます。

平戸市においては、単なる「人の数」を増やすのではなく「人と人とのつながり」を増やすことに価値があると考えています。さまざまな価値の発見に人も集まるのではないのでしょうか。人と人の絆が「宝」です。市民の一人一人が「平戸の宝」を見つめ直し、「宝」を生かして育てることにより未来を築いていきたいもの。最後に誰もが知っている「上杉鷹山」の有名な言葉を紹介します。

為せば成る
為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬなりけり...

卒業生に聞きました

市内の高校を卒業後、進学・就職して地元で働いている3人の社会人に高校時代のことについてインタビューしました。

猶興館高校

猶興館だからこそ夢を叶えることができた

中学生のころ、将来の自分にできる仕事は?と考えたときに、体力に自信があり人助けも好きだったので、消防士を目指しました。その消防士になるための勉強ができる環境に自分を置こうと思い「猶興館高校」への進学を決めました。

大島出身のため下宿をしていましたが、家族のように接してくれた下宿のおじちゃん、おばちゃん、両親、先生、周りの友達に支えられ本当に感謝しています。受験勉強で忙しい友達も、全員が協力して体育祭の準備をしたことが充実した思い出です。高校は、入学してから自分が何をどれだけやれるかで大きく変わります。将来の夢を叶えるために、ぜひ猶興館に進学して欲しいですね。



たていし ひろのぶ
立石 博信 さん
平戸市消防署勤務
平成30年度卒業

平戸高校

生徒のやりたいことを先生たちがサポート

小学生のころからサッカーをやっていて、平戸高校の校長先生から女子サッカー部を創ると言われ、一緒に女子サッカーを続けていた同級生とともに平戸高校に進学しました。部活が一番の思い出ですが、部長だったことで苦勞や経験もあり、今の仕事に生かせていると感じます。

私は、教師になるため大学進学を目指していたので、受験のときは先生が遅くまで一緒に残って指導してくれました。高校時代は、いろんな可能性があり、自分のやりたいことに夢中になって「自分らしさ」や「自分にしかないもの」を見つけたいと思います。



さきもと まりこ
崎本 莉子 さん
田平東小学校勤務
平成26年度卒業

北松農業高校

高校での経験はいろんな職場で生かせる

北松農高に進学したのは、自宅から通えることと高校卒業後は就職を希望していたので決めました。高校では、生活科学科で介護福祉コースを選択していたので週1回の介護実習では苦勞しました。でも、施設利用者とのコミュニケーションをとる経験が生かされ、会社の先輩や上司との意思疎通も良好です。

私は、平戸が好きで地元の会社に就職しましたが、仕事のやりがいを凄く感じています。どこの高校に進学しても絶対に学ぶことができますが、北松農高は農業に興味なくてもいろんなことが学べるし、資格も取得できるので、将来の職業をこれから考えたい人にはお勧めですね。



いまむら わかば
今村 若葉 さん
赤木コーセイ株式会社勤務
平成30年度卒業